

なぜ日本で働くのか

—アジア新興国ベトナムから考える—

話題提供

川越 道子 氏

(大阪公立大学 人権問題研究センター特任准教授)

11月16日 (水)

午後1時30分～3時30分

大阪公立大学 人権問題研究センター

オンラインと対面開催を予定しています。

定員 対面 10名 ZOOM 100名

事前申込・先着順

無料

参加希望者は otazune@rchr.osaka-cu.ac.jp に前日正午までにご連絡ください。

定員に達し次第締め切りとさせていただきます。

長らく外国人の受入れに閉鎖的であった日本は、少子高齢化に伴う若年労働力不足を背景に、近年、法改正や規制緩和を繰り返して外国人労働者受入れの門戸を急速に広げている。しかし、世界においても労働力の獲得競争は激化しており、そうした中で経済が縮小傾向にある日本は、労働者にとって徐々に魅力がない国になりつつある。政府や経済界から「選ばれる国に」という言葉が発せられはじめた一方、依然として、日本において送出し国の社会状況や労働者の意識や姿が十分に理解されてきたとはいえない。

今回の報告では、現在、日本への主要な労働力送出し国となったベトナムを取りあげて、日々、目まぐるしく変容するアジア新興国の社会変容をとらえるとともに、海外に働きに行く若者たちの意識について見ていく。そこから、今後の外国人労働者の受入れや「共生」において何ができるのかを考えたい。

【新型コロナウイルス感染予防対策のため、ご協力をお願いいたします。】

※発熱や風邪のような症状のある方につきましては、参加をお控えください。※かならずマスクの着用をお願いいたします。

※会場入口に消毒薬をご用意しておりますので、ご利用をお願いいたします。